

弱視児童生徒の特徴について

弱視児童生徒には、こんな特徴と対応があります。

1. 目を細める

近視や遠視などの屈折異常や、それ以外の眼疾患による視力低下、まぶしさなどのため、目を細めることがあります。視力検査「D」判定のままだと、教室最前列でも黒板の文字の半分は読めません。文字や図表の拡大が必要です。

2. 物や人に近づいて見る

視力低下のため、よく見ようとして物や人に近づいたり、物を目の近くに持ってきたりします。医師から特に指示がなければ、近くで時間をかけて見られるようにしてください。しかし、人との距離が近すぎてトラブルになることがあります。

3. 見えているふりをする

よく見えていないのに、見えているふりをする場合があります。見えていないために情報入手や判断が鈍くなり「勉強が苦手」と思われる場合があります。本人の気持ちに寄り添いながらですが、拡大や見る時間の確保で学習保障が必要です。

4. 音に敏感な様子が見られる

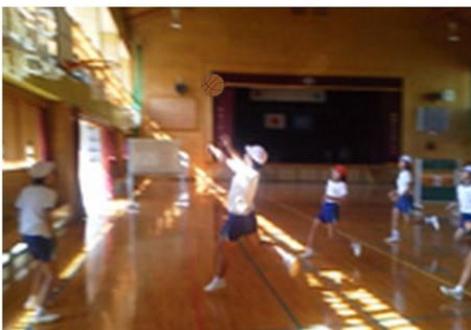
耳が非常によいという場合は、実は視覚が使いにくい状況にあることがあります。視覚を聴覚で補っている状態です。

5. 物にぶつかる、つまづく

視力はあまり変わってなくても、例えば下方の視野が狭くなったり欠けたりと、障害物に気づかずに物にぶつかったり、つまづいて転んだりすることが多くなります。下ばかり見て歩く様子も見られることがあります。p.3のテープの活用が効果的です。

6. ボールをキャッチするのがうまくできない

視野が狭くなると、動きのあるものを目で追うのがとても難しくなります。例えば、バスケットボールでは、床や壁の色とコントラストの高い青い物を使ったり、ビブスを着て、敵・味方を判断しやすくしたりすることが考えられます。



7. 晴れた日にやけにまぶしがる

眼疾患により、まぶしさの訴えがあります。P.3 を参考にしてください。

8. 薄暗くなると動きが鈍くなる

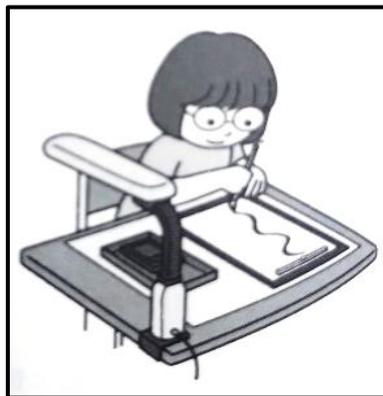
夜盲や視野が狭くなることで、薄暗くなると見えにくくなり、動くのが難しくなることがあります。足元を照らしたり周りに存在を知らせるライトの使用が効果的です。

弱視児童生徒の特徴から、学校生活では相手の表情の読み取りや適切な距離間が苦手なことがあります。また学習面では漢字の形の認識や目盛りの読み取り、道具の操作が難しいために学習をスムーズに進めることができないことがあります。

クラスメイトの理解や、補助道具の活用、環境整備など必要な配慮や支援を本人と相談しながら行っていくことで学校生活や学習が安全で充実したものになっていきます。

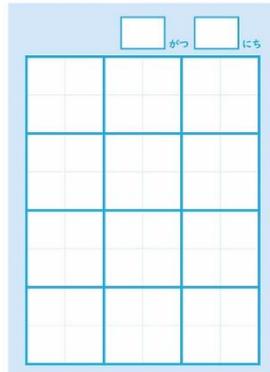
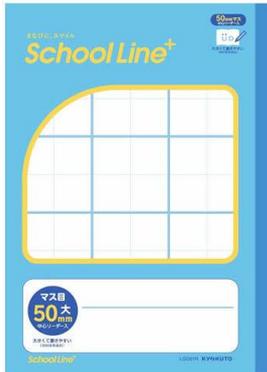
学習環境の「色・コントラスト・明るさ」について

- 学習環境を整える際、色やコントラスト(明暗の差)を調整することが必要です。児童生徒の見え方や眼疾患によっては、暗いと見えにくいだけでなく、明るすぎると見え方が低下する子どももいます。
- 教室では、黒板の明るさが均一になるように、部屋全体の明るさを調節します。廊下側と窓側で差がないか、照明(蛍光灯)の数や明るさなどを確かめます。天候によっても違い、太陽光が強く差し込むときこそ、カーテンやブラインドで遮光し、照明で教室内を均一の照度に保つ配慮も必要となります。
- 眼を近づけて見ると手元が暗くなりがちなので、教室内の照明で明るさが不十分であればデスクライトを用意します。鉛筆で書いた文字が見やすいように明るく真っ白な用紙を使うと、逆に光の反射が強すぎてまぶしさを感じ、疲れてしまうことがあります。使っている机がつつややしてまぶしさを感じる場合もあり、つつや消しの灰色や黒色のシートやマットを敷くという工夫で、コントラスト差(色の差)により教科書やノートが見やすくなることもあります。



デスクライトを使用して、勉強している図

- 板書はコントラストの明確な白や黄色を中心に用います。ホワイトボードでは、黒や青、赤のマーカーのコントラストが高いと言われています。また、色で分けるだけではなく、大事なところは太く書く、下線を引く、四角く囲む、といった方法がわかりやすいこともあります。「ダストレス eye チョーク」という、ユニバーサルカラーのチョークもあります。
- ノートはマス目のはっきりとした物を選び、濃い鉛筆やボールペンを使う、定規などもコントラストの高い物を使います。文字をマス目に正しく入れて書けない場合、視力に対してマス目が小さいからと考えることがあります。マス目の線の色が薄く識別されにくいという点もまたあります。日本ノート株式会社の「School Line プラス」などのマス目の線の太いノートがおすすめです。

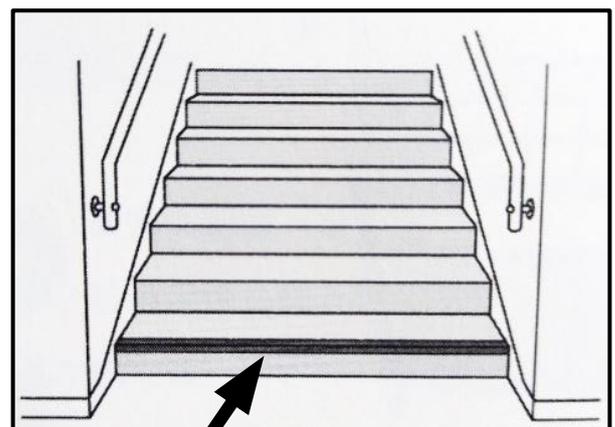
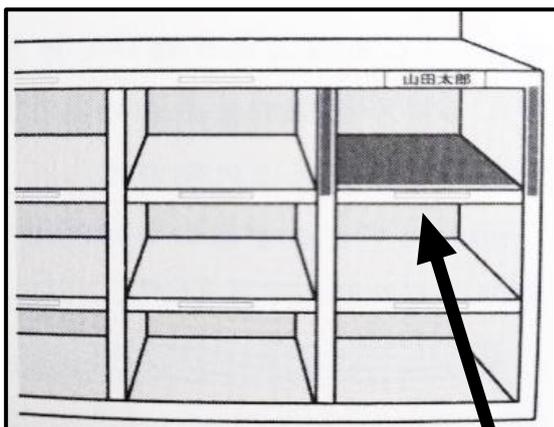


『日本ノート株式会社』HPはこちら



URL : <https://www.nippon-note.co.jp/products/category/series/?category=1&series=50&sort=high>

- その他に、自分の下足入れやロッカーに色テープを貼って他の児童生徒と区別しやすくしたり、階段や段差のあるところに色テープを貼って、目立たせてつまずいたり踏み外してしまうことを予防したりといった環境整備があります。校内の明るさを適切に保つとともに、グラウンドでは直射日光で眩しく見えにくくなっていないか確認し、まぶしい場合は児童生徒の背中側に太陽がくるように立ち位置を決めたり帽子や遮光眼鏡を身に付けたりすることも有効になります。



ロッカーと階段の段差に、色テープを貼った図

- いずれについても、本人の眼疾患と黒板の見方や文字を書いている様子を確認しながら、調整していくことが必要です。「色のシミュレータ」というアプリ(iOS、アンドロイドともに無料)を使うと、様々な色覚特性を持つ人の色の見え方を体験することができます。プリントや板書がどのように見えるか確かめることもできるので、ぜひ使用してみてください。



『色のシミュレータ』ダウンロードはこちら



(iOS/Android どちらも読み取り可能)

- ※ イラストは『見えにくい子どもへのサポート Q&A』(氏間和仁編著 読書工房)より
- ※ 画像は日本ノート株式会社HPより
- ※ 画像はアプリ『色のシミュレータ』より

- ※ 以下の写真は、色のシミュレータで撮ったもの
 - 「C」が、一般的な見え方
 - 「D」(2型)が、日本人に多い色覚特性
 - 「P」(1型)が、日本人に2番目に多い色覚特性
 (程度には個人差があります。)

C(一般的)	<p style="font-size: small; margin: 0;">c</p> <p>白いチョークは、白くは、きり見えます。</p> <p>黄色のチョークも、は、きり見えます。</p> <p>赤は、緑(まい黒板と同化して沈んで見づらい)</p> <p>緑は意外とは、きり... でも黄色。(まい?)</p> <p>青も意外と読めるけれど、「見づらい」という声が多いです。</p>
D(2型)	<p style="font-size: small; margin: 0;">d</p> <p>白いチョークは、白くは、きり見えます。</p> <p>黄色のチョークも、は、きり見えます。</p> <p>赤は、緑(まい黒板と同化して沈んで見づらい)</p> <p>緑は意外とは、きり... でも黄色。(まい?)</p> <p>青も意外と読めるけれど、「見づらい」という声が多いです。</p>
P(1型)	<p style="font-size: small; margin: 0;">p</p> <p>白いチョークは、白くは、きり見えます。</p> <p>黄色のチョークも、は、きり見えます。</p> <p>赤は、緑(まい黒板と同化して沈んで見づらい)</p> <p>緑は意外とは、きり... でも黄色。(まい?)</p> <p>青も意外と読めるけれど、「見づらい」という声が多いです。</p>